



今年度実施の研修講座の様子を紹介します！！

①こどもたちに夢を！～岡山の誇りとなる存在になる～【岡山魅力再発見研修講座】



「第3期岡山市教育大綱」の柱3に「地域社会とつながる力の育成」が掲げられています。これは、こどもが地域とつながって「地域のために何かやってみたい」と考え、行動する力の育成を目指すものであり、こどもが地域とつながることで得られる安心感や役に立ったという自信は、予測不能で変化の激しい現代社会において、選択と挑戦を繰り返す原動力になると考えています。そのためには、まず、こどもたちが自分の住んでいる町を好きになり、大切にしたいという思いを膨らます教育活動の仕掛けが大切であると考えました。

そこで、本研修講座では、株式会社ファジアーノ岡山スポーツクラブ 代表取締役社長 森井 悠様を講師に、岡山市の課題解決に向けて、選手・スタッフがサポーターと共に繰り返してこられた歴史的挑戦についてお話を伺いました。これまでの歩みに関わってこられた方々の熱い情熱と取組が、私たちの中に「岡山プライド」を芽生えさせているのだと実感できる仕掛けや戦略をたくさん学ぶことができました。

そして、最後は、グループに分かれて「こどもたちが地域社会とつながり、行動する力を育成する」ための第一歩として、2学期からの行動宣言を「ニコニコの笑顔+岡山弁」で行いました。未来へ羽ばたくこどもたちの成長を一番近くで見ている私たちだからこそ、こどもたちの無限の可能性を引き出す教育活動をひたむきに続けていかんとおえんよな～。



②基礎形成期1年目の先生方を支え、励ます【初任者研修講座】

今年度の初任者研修講座(全14回)では、「よりよい人間関係づくり」「学習指導の基礎・基本」「教育相談」「学級経営の実際と工夫」「キャリア教育」「探究的な学び」など、様々な内容について学んでいます。講義を聞くだけでなく、校種を越えた初任者同士で意見交流をしながら、学びを深めています。



また、昨年度まで実施していた「課題別実践」を、今年度から「マイ・プロジェクト」に変更しました。「マイ・プロジェクト」では、「学習指導」を中心にして「授業力」の向上を図ることを目的としています。それぞれが自分に必要な課題を設定し、PDCAを通して自己課題を把握し振り返り、よりよい授業づくりを目指します。



2学期は「学校訪問」が始まっています。悩みながらも成長し続ける初任者の先生方を、これからもセンター職員全員で伴走していきます。1年間取り組み、新たな課題を見付け、2年目、3年目へと学びをつなげてほしいと思います。



③自ら新しい価値を生み出し、挑戦する姿勢を育む【アントレプレナーシップ研修講座】

本研修講座は、教職員が自ら新しい価値を生み出し、挑戦する姿勢を育むことを目的として、昨年度から実施しています。今年度も、文部科学省アントレプレナーシップ推進大使である無花果株式会社代表取締役の中藤 寛人様を講師にお迎えし、岡山駅前にある商業施設内のスタートアップ支援拠点「ももスタ」にて研修を実施しました。ワークショップでは、「学校の中・外で一步踏み出してみたいこと」をテーマに、受講者同士が自分の想いやアイデアをぎゅぐゅに語り合いました。



日頃の学校生活から一步離れ、「自分が本当はやってみたいこと」に光を当てることで、当事者性や柔軟な発想を深める貴重な時間となりました。受講者からは、「失敗を恐れずに挑戦する大切さを実感した」「明日からの教育活動やこどもたちへのアプローチに対する視野が広がった」といった

前向きな感想が寄せられました。先生方が「起業家精神」をもってワクワクしながら挑戦する姿は、こどもたちの好奇心や主体的な学びを引き出す一番の力となります。なお、本研修の様子は、岡山市教育委員会広報動画「教育長がきょうもいく」でも紹介されています。ぜひご覧ください。



「教育長がきょうもいく」二次元バーコード→



④研修と研究を一体化して教育課題解決を目指す【スクール・コア・リーダー養成研修講座】

本研修講座は、「学校組織の核(コア)を担い、全体を調整するスクール・コア・リーダーとして必要な資質を身に付けるとともに、岡山市の教育の現状や方向性について認識を深め、よりよい岡山市の学校づくりに向け、率先して研究実践を行う」ことを目的に、今年度からリニューアルしました。

今年度は「発展的で持続可能な『働き方改革』の実現に向けて～教育 DX 推進の視点から～」をテーマとし、6名の受講者が1年間かけて実践研究を行っています。

これまでに、教育企画総務課、教育給与課、学校指導課、教育支援課、情報教育推進室、当センターの担当者から、岡山市が目指す教育の実現に向け、どのような取組をしているのか、先生方の働き方改革につながる取組をしているのかについてお話を聞く機会がありました。

受講者の感想からは、「言われたとおりにこなすのではなく、自覚と当事者意識をもって参画する大切さを学んだ。」といった当事者意識や、「単に時間を減らす・楽にするだけでなく、教育DXの先に得られる成果を見据えて提案を考えていきたい。」といった目的意識の明確化につながる気付きが見られています。



働き方改革というと「削減」に目が向きがちですが、大切なのは「何のための改革か」「生み出した時間で何を行うか」というビジョンです。また、単に新しいことを始めるのではなく、その実践が「誰のどんな幸せにつながるのか」を意識する必要があります。中間発表会を終え、学校現場でのさらなる実践につなげています。受講者たちの挑戦が、皆様の学校での「持続可能な学校づくり」のヒントとなるよう、研究の成果を順次発信してまいります。